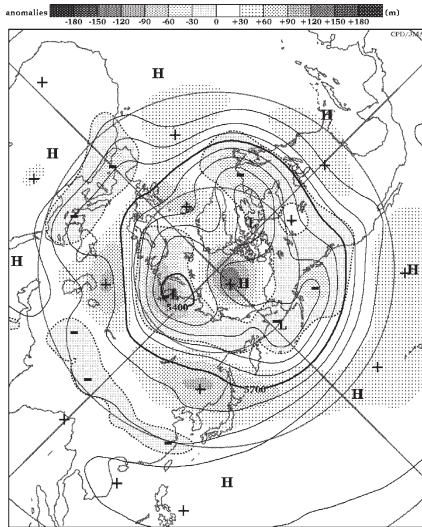


2010年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500hPa 高度場を見ると、東西方向の流れが卓越し、高緯度域では北極付近等を除いて全般に負偏差、中緯度域では帯状に正偏差が分布した。西シベリアではトラフが発達し、カスピ海の北側や中国東北区では顕著な正偏差がみられた。日本付近は西谷場となった。ユーラシア大陸では、60°N 付近で寒帯前線ジェット気流が明瞭で、亜熱帯ジェット気流は平年と比べて南寄りだった。北太平洋高気圧は平年に比べて強かった。対流圏下層の気温は、モンゴルから北海道付近にかけて顕著な高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、インド洋東部、インドネシア付近で平年より活発、フィリピン付近、西部から中部太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動(MJO)は不明瞭で、上層の散逸偏差の中心位置はインド洋付近に留まった。太平洋中部から海洋大陸にかけての対流圏下層では東風偏差が強かった。南シナ海北部からフィリピン付近では高気圧性の循環偏差が顕著で、月の後半を中心に華南から本州南岸にかけて平年より多い水蒸気の輸送をもたらした。南方振動指数(SOI)は+0.5だった。



2010年6月の北半球月平均500hPa 高度および年偏差
等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は1979～2004年のデータから作成。

世界の天候

2010年6月の世界の月平均気温年差は+0.40°Cとなり、1998年と並んで1891年の統計開始以降で最も高い値だった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.65°C/100年である。主な異常天候発生域は次のとおり。

○東シベリア南部～中国北部では、異常高温、異常少雨となった。

○ヨーロッパ南部では、低気圧や前線の影響を受け、異常多雨となった。

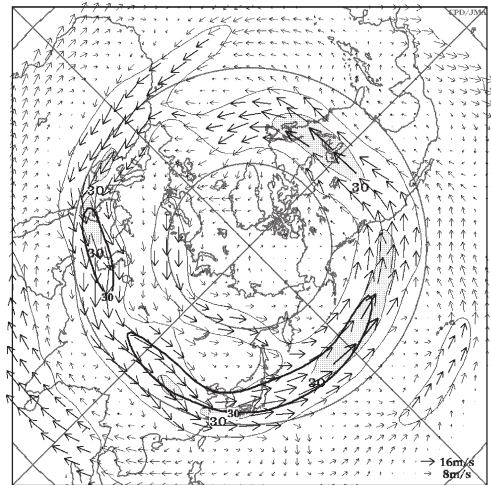
○米国北東部～中部では、前線の影響を受け、異常多雨となった。その南の米国南東部～カリブ海諸国では、大西洋の亜熱帯高気圧が北西に張り出し、異常高温となった。

○ポリネシア南部～メラネシア東部では、異常高温となった。

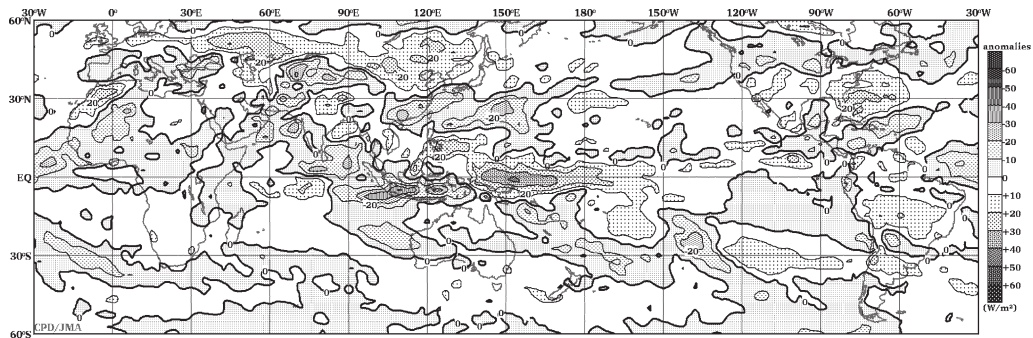
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

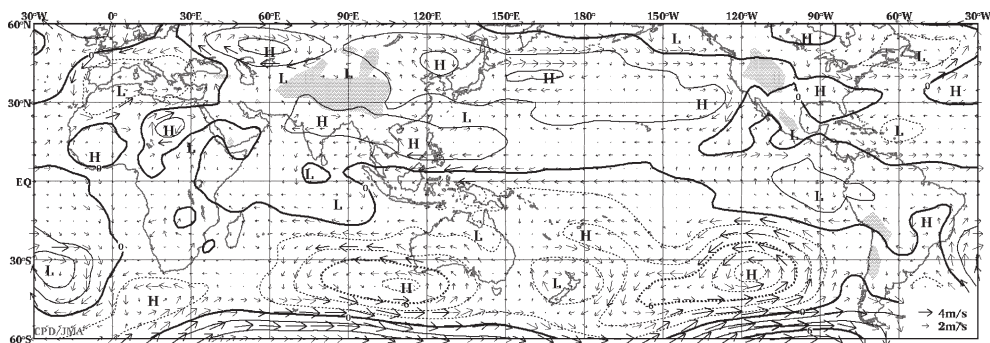
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



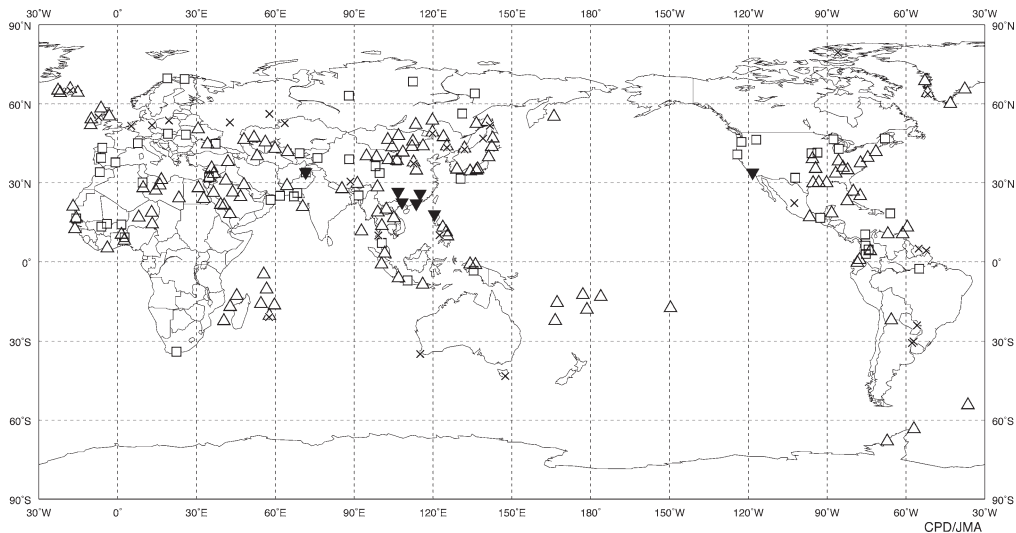
2010年6月の北半球月平均200hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15m/s。陰影部は30m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30m/s以上の領域を示す。年偏差は1979～2004年のデータから作成。



2010年6月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2010年6月の月平均850hPa 流線関数年偏差および風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2010年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。